



利根中央病院だより

第74号
2025年 新年号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 病院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：https://www.tonehoken.or.jp/

新年のご挨拶

病院長 ^{せきはら} 関原 ^{まさお} 正夫



新年あけましておめでとうございます。皆様とともに、新しい年を迎えることができましたことをお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、いまだ散発的な発生を見、更に季節性インフルエンザウイルスなど他の感染症が拡大している状況です。今年は「乙巳（きのと・み）」年です。巳は「ヘビ」を指し「再生」「復活」「長寿」を象徴し、縁起が良い生き物とされています。乙は草木が

しなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持つそうです。則ち、乙巳の年とは「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年と理解されます。

皆様とともに柔軟に成長する病院を作りあげていくために、地域の皆様・医師会の皆様・行政の皆様と協力しながら日常診療に邁進して地域の健康を守っていく所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

巳年の年男・年女からごあいさつ

リハビリテーション室 ^{はらさわ} 原澤 ^{ようじ} 陽二

新年あけましておめでとうございます。以前からマラソンにはまっており、昨年は初の県外遠征もできました。グストラナーの元金メダリストとハイタッチできたのはとても良い思い出です。今年も仕事に興味に楽しく取り組んでいこうと思います。皆様にとっても、素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



6 A病棟 ^{かばさわ} 樺澤 ^{みどり} 翠

あけましておめでとう御座います。心は2回目の年女です。巳年の巳は胎児の形から派生した文字で「子孫繁栄」や「家族円満」を表しています。そんなかわいい巳年ベビーのお産を、精一杯お手伝いさせていただきたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。



医局事務課 ^{ましも} 真下 ^{しゅんすけ} 駿佑

新年あけましておめでとうございます！社会人1年目、入職から10か月が経ちましたが、想像以上の難しさ、人の暖かさを感じる日々でした。いまだ迷惑ばかりおかけしていますが、そんな状況を続けるわけにはいきません。必ず脱却します！



3 A病棟 ^{かとう} 加藤 ^{あい} 愛

新年あけましておめでとうございます。入職してあっという間に10ヶ月が経ちました。まだまだ至らない点がありますが、日々の勉強や先輩方からのご指導のもと学びを深め、患者様に寄り添う看護を行っていきたく思います。よろしくお願いいたします。



緩和ケアチームの紹介

がん治療中の患者さまやそのご家族は、さまざまな「痛み」と向き合われています。そうした痛みは「身体的苦痛」「精神的苦痛」「社会的苦痛」「スピリチュアルペイン」の4つに分類され、包含して「全人的苦痛」として定義されています（WHO, 2002）。苦痛が少しでも和らぎ、がんとともに生きることの“意味の回復”を支援するのが「緩和ケアチーム」Palliative Care Team: PCTです。かつては終末期医療のイメージでしたが、現在では「がんと診断されたときからの緩和ケア」が世の中のスタンダードです。

当院のPCTは2000年代初頭から20年以上の活動実績があり、今年度からはさらに体制を強化し、①身体系専任医師（総合診療科・渡邊健太Dr.、書上奏Dr.）、②精神系専任医師（筆者）、③緩和薬物

精神神経科科長 ふじひら 藤平 かずよし 和吉



療法認定薬剤師（宮前香子Ph.）、④緩和ケア認定看護師（鈴木真紀子Ns.）らを中心に、「各病棟」に数名ずつ配置されたチーム看護師も合わせ、総勢20名体制で対応させていただいています。

がん性疼痛や呼吸困難、嘔気、全身倦怠感などの「身体症状」の緩和は勿論のこと、抑うつやせん妄などの「精神症状」や、療養場所や経済的困難などへの「社会的サポート」、そして何よりも“人間らしいところの痛み”の発露である「スピリチュアルペイン」へのケア的対応を、がん診療科の主治医らと協力／連携しながら行なっています。患者さまやご家族の痛みが少しでも和らぐようなお手伝いを目指して日々努力しておりますので、今後も引き続き、よろしくお願い申し上げます。



緩和ケアチームカンファレンスの様子

リハビリ室の紹介

当院リハビリ室は、脳血管・廃用・運動器・呼吸器・心大血管リハビリテーション料の施設基準Ⅰ及び、がんリハビリを満たしており、理学療法士（PT）34名、作業療法士（OT）18名、言語聴覚士（ST）4名、歯科衛生士（DH）1名がチームとなって、一人ひとりの患者に最適なりハビリプログラムを提供しています。また、広々とした空間（約400㎡）には最新の設備を備え、エルゴメーターなどのトレーニングマシンや各種物理療法機器、ドライブシミュレーター等を完備しており、運動能力の評価や機能回復を支援します。日常生活動作訓練室・言語聴覚療法室・心臓リハビリ室等、専用の訓練室も併設しさまざまなリハビリニーズに対応しています。

地域づくりについては介護予防事業に力を入れており、各市町村と連携して地域の高齢者の方々が健康で自立した生活を送るための支援を行っています。運動プログラムや医療相談・健康講座を通じて介護が必要になる前に予防策を講じています。また、多職種で行っている地域の小中学校等への保健講話ではセラピストとしての専門性を活かし、姿勢教室を通して子供たちの目の健康をサポートしたり、JAとの共同企画では親子農業体験で運動指導を行

リハビリ技士長 もろた 諸田 あきら 顕



ったりしています。生協組合員の健康づくりを目的としたハイキング企画では準備体操の指導や参加者の安全管理も行っています。

当リハビリ室では仕事と家庭生活のバランスを大切にして、男性職員が育児休暇を取得しやすいようにサポートを行っております。また、年次有給休暇の取得率もほぼ100%に達しており、スタッフ全員が健康的に働ける環境を整えています。これにより、常に高いモチベーションと専門性を持って患者様に最適なケアを提供することが可能です。

歯科衛生士はPT、OT、STと協業して口腔ケアと院内肺炎予防に取り組んでおり、早期退院を実現しています。また、認知症ケアチーム、呼吸ケアチーム、摂食嚥下サポートチーム、糖尿病チームなど、多職種が連携して患者様に最適なケアを提供します。



リハビリ室



ドライブシミュレーター



リハビリ室スタッフ

糖尿病教室が開催されました

2024年11月16日（土）地域住民の皆さんを対象とした糖尿病教室が開催されました。

内分泌内科：荒木医師による「糖尿病ってどんな病気？」、管理栄養士による「栄養の話」、理学療法士による「運動療法について」の3つの内容で講演を行いました。

2015年から毎年開催していたこの糖尿病教室は、コロナ感染症感染拡大のため2020年から中断しておりましたが、今回4年ぶりの開催の運びとなりました。



当日は18名の方が参加して下さり、地域の皆さんの関心の高さを感じました。また最後には、糖尿病患者会「しのめ会」の案内もさせていただきました。その後入会の問い合わせもあり、うれしく思っています。

受講後のアンケートでは、「もっと聞きたかった」「食事サンプルをたくさん見たい」「運動について具体的に知りたい」といった声をいただきました。次回開催の参考にさせていただきます。

今後も地域の皆さんの健康のお手伝いができるよう、情報の発信を行っていききたいと思います。



きらめき トピックス

地域連携室 新年の挨拶

2024年は各医療機関、各施設から数多くの患者様をご紹介いただきまして、誠にありがとうございました。おかげ様で紹介患者様は年々増加傾向にあります。

2025年も円滑な地域連携、逆紹介のさらなる増加を目指し、地域に貢献できるよう日々精進してまいります。

また、専門外来への予約は地域連携室にて承っておりますが、当日の紹介・救急患者に関してはお電話にて随時お受けしておりますので是非ご利用ください。

今後も利根中央病院 地域連携室として、医療機関へのご挨拶、訪問等に伺うことがありますがその際はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



総合支援センター長
はらだ たかし
原田 孝



総合支援センター
副看護部長
みやもと えみこ
宮本 笑子



地域連携室
課長
かわべ ゆき
河邊 有紀



地域連携室
事務
の と まさみ
能登 雅美



地域連携室
事務
はやし さとし
林 怜史

※利根中央病院 総合支援センターは、地域連携部門（事務3名）、入院センター部門（看護師3名）、相談支援部門（退院支援看護師3名・医療相談員7名）で構成されています。